感謝報告

いずみの活動をおぼえて祈りとともにたくさんのご支援を頂き、心から感謝申し上げます。日本基督教団東日本大震災救援募金の「いずみ」への指定献金も合わせてこちらにご報告させていただきます。記載落し・ミス等ございましたらご連絡ください。（敬称略・順不同・特別記載のない団体は教団の教会・団体です）

個人献金

井ノ上利恵（2）、下村晃司、吉田嘉恵、村上里香、福山笑子、霜山哲夫・眞理子、北尾不二子、唐牛健三、安田治夫、（合計 139,525円）

団体献金

いずみ愛泉教会「子どもの教会」、いずみ愛泉教会、いずみ愛泉教会「オリーブ会」、学校法人月寒キリスト教学園「黎明幼稚園」、北海道クリスチャンセンター、仙台市民教会、札幌北部教会青年会、学生キリスト教友愛会（SCF）、武蔵野教会、仙台東一番丁教会青年会、長野県町教会、長崎平和記念教会、別府教会、南三鷹教会、越谷教会、西川口教会（4）、仙台東教会（2）、駒澤教会、鳴子教会、代田教会、日土教会、小野教会、吉原教会、野方町教会「よんカフェ」、遠州教会「東日本大震災被災者支援委員会」、北海教区「東日本大震災支援委員会」、富士見町教会、阿佐ヶ谷教会、原宿教会「子どもの礼拝」、伏見教会、名取の環境を守る会、室蘭知利別教会、大和高田伝道所、廿日市教会、仙台愛泉教会、三軒茶屋教会、片倉教会、六角橋教会、東京信愛教会、堺清水橋教会、久が原教会、西中国教区「宣教委員会社会部」、広島南部教会、深川教会、宮崎清水町教会、国分教会、豊島丘教会、（合計 1,737,637円）

献品

佐藤照子、谷関恭子、笠松絹子

以上感謝をもってご報告させていただきます。（2014年1月～2014年3月末）

運営委員・スタッフの紹介

運営委員長 小林休（鳴子教会）

運営委員 明石義信（常磐教会）
保科隆（仙台東一番丁教会）
布田秀治（いずみ愛泉教会）
最上千絵子（仙台北教会）

室長 保科隆（仙台東一番丁教会）

顧問 篠原弘典（原子核工学専門家）

スタッフ 阿部奈々
菊池基史
後藤重雄

日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ
UCCJ Tohoku District Nuclear Disaster Relief Task Force “IZUMI”
〒980-0012 仙台市青葉区錦町1丁目13－6
TEL/FAX 022-796-5272
メールアドレス izumi@tohoku.uccj.jp
ホームページ http://tohoku.uccj.jp/izumi/
室長 保科隆（日本キリスト教団仙台東一番丁教会牧師）

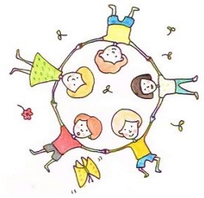
日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ ニュースレター 第2号 2014年4月30日発行

いずみ

題字 丹治正雄氏

日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみです。

放射能汚染により傷ついている人々に対して、様々な方向からの支援と心のケアを展開する東北教区の機関です。仙台を拠点として、放射能問題における情報発信と連携のキーステーションとなることを目的として、2013年10月から活動を始めています。



『健康相談と検診』『保養プログラム』『訪問と傾聴』という3本の柱をもとに様々な活動を行っていきたいと思います。

私たちの小さな働きが、原発事故で疲れ・不安を抱えた方々にとって“いずみ”となることができますように…

日本キリスト教団国際会議スタディーツアー

篠原さんレクチャー（石巻山城町教会）

3月11～14日の日程で日本基督教団東日本大震災国際会議が東北学院大学を会場に開かれました。「原子力安全神話に抗して」というタイトルのもと、世界中から多くの方が集まりました。

3月14日から15日にかけては、**いずみと被災者支援センター「エマオ」**が共同でスタディーツアーの中身を企画。台湾、韓国、アメリカ、ドイツ、スイス、ニュージーランド、インド、日本から約50名の参加がありました。いずみ担当の14日（金）は女川原発（外観）とPR館を視察、その後石巻山城町教会を会場に篠原弘典顧問による女川原発についてのレクチャーを受けました。レクチャーの中で篠原さんは、女川原発の誘致をめぐり家族や親族が分断されてきた状況を見てきたことに触れ「女川がこれからどういう街づくりをしていくのか、今問われている」と話されました。**「自国に帰り、見たこと聞いたことを一人でも多くの人に伝えます」**という参加者からのメッセージにとても強く励まされました。

女川原発ＰＲ館で担当者の話を聞く参加者

女川原発を外から眺めて

翌15日（土）は被災者支援センター「エマオ」の案内のもと、石巻市の津波の被害を受けた場所をいくつかまわりました。「エマオ」の日々の活動に触れ、現在の課題やこれからの活動展開について話を聞くことができました。

他の活動機関とつながりあうことで、単独ではなしえない活動や支援を行いたいと思います。

“点から面へ“いずみの大きな目標です！

こころとからだをリラックス！親子短期保養プログラム in 沖縄

お世話になったセミナーハウスにて

2014年3月26日（水）～4月1日（火）にかけて6泊7日の日程で親子の保養プログラムを沖縄で行いました。3･11以降、北日本宣教会議（日本基督教団北海･奥羽･東北の三教区）が春と夏に続けてきた第五回目の長距離保養プログラムでした。いずみが立ち上げられたことにより、この回からいずみが共催として実務を担当し、引率者としてスタッフ一名が参加しました。参加者は**10家族31名と引率スタッフ3名の総勢34名！**東北に比べるとすでに“**夏**”のような沖縄で、泳いだり、汗びっしょりになるまで遊んだり、素晴らしい一週間を過ごしました。

美ら海水族館にて

予報ではあまり良い天気ではなかったのですが、参加者の思いが届いたのか（？）暖かく、青空が広がる日が続きました。**沖縄キリスト教センター「ぎのわんセミナー・ハウス」**を拠点として、首里城や美ら海水族館などの観光名所を巡ったり、現地のこどもたちに混ざってエコキャンプに参加したり、海や公園でのんびりする時間もたっぷりあって、ゆったり過ごすことができました。初日に行った佐喜眞美術館や道の駅の屋上から眺めた嘉手納基地、美しい海や公園で遊んでいるときに上空を爆音とともに飛んでいく戦闘機･･･。参加者一人一人、心に思うことがあったことでしょう。

いろんな生き物を発見したよ！

はじめはモジモジしていた子どもたちも、最後はひとかたまりになって遊んでいました。**口にするものを気にせず、雨が降っても恐れず、裸足で駆け回ることができる…**子どもたちを見守るお母さん方の笑顔もたくさん見ることができました。4日目と5日目の夜には、3年間それぞれが抱えてきた思いを語り合う時を持ちました。恐れ、不安、怒り、悲しみ…3年たった今、これらの感情が和らぐことはなく、むしろ一人ひとりの中で大きくなっているようでした。それにもかかわらず縮小されていく支援、確実に薄れていっている人々の記憶、差別、広がる健康被害など、多くの課題にいずみとして何ができるのかを考えるひと時でした。

今回プログラムに参加した一人ひとりにとって、一緒に過ごした沖縄での思い出がそれぞれの地で生きていく力になればと願っています。いずみも今回のつながりを温めていくことができれば、と強く思います。

最後に、お世話になったセミナーハウスの皆さんと沖縄で暖かく歓迎してくださった方々に心から感謝いたします！

エコキャンプでのひとコマ

仙台市内での甲状腺検診

2014年3月30日（日）、終日激しい雨が降る日でしたが、第2回目のエコーによる甲状腺検診を、仙台市内でおこないました。

今回は、青葉区で小児科医を営んでいる、寺澤政彦先生（写真左端）が検診してくださいました。また、「いずみ」の営みに関心を持たれ、ご自身も力添えをしたいとお考えの大塚純一先生（寺澤先生の右側）が福岡から見えられ、寺澤先生のサポートをかってでてくださいました。

当日、検査をうけられた方は48名でした。

その多くが、仙台市や名取市、大崎市にお住いの、5歳から16歳までのお子さまでした。

また、運営面では、放射能問題に関心のある市民の皆様の献身的なサポートによって、スムーズにはこび、受診に来たお母様やお父様、そしてこどもたちの緊張感を和らげてもいただきました。

今回までは、福島県いわき市にある、「NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね」様から、検査機をお借りして検診を進めてまいりました。しかし、今後いずみとして定期的に検査を進めていくことが可能となりました。それは、下記コーナーに特記しましたように、お陰様でこのたび、日本基督教団救援対策本部の支援の御支援を頂きまして、甲状腺検査機を購入することができたからです。ご承知のように、甲状腺検査を希望される方は宮城県の各地におられます。いずみとしてその人たちの不安に寄り添うためにも、これからの活動を続けていきます。

また、これまでの「いわき放射能測市民定室たらちね」様のご厚意に深く感謝いたします。

＊当日のアンケートから

A:「ずっと診断を受けたいと思っていたのでとにかく安心致しました。無料で検診させていただいたことに感謝しております。ありがとうございました。」

B:「ずっと気になっていた事で、検査の機会を与えて頂きありがとうございました。」

C:「今回、無料で検査していただいたことに感謝しています。一応問題無し、との話で安心しました。次回もあれば参加させてください。」

＜甲状腺検査機を備えられました＞

「いずみ」の重要な働きの一つはエコーによる「甲状腺検査」です。この活動に必要なエコー検査機（写真）が、日本基督教団救援対策本部の御支援を頂いて、4月1日より「いずみ」に備えられました。

宮城県内では、民間でエコー検査機を所有し、甲状腺検査を行っている団体は他にありません。この検査機はですから、検査を待っている多くの方たちの救いになると確信します。

「いずみ」では、2014年の活動として、仙台市内だけでなく、福島第一原発事故により放射能汚染が心配される、宮城県南部や北部での甲状腺検査の定期的な実施を企画しています。この検査機が一人でも多くの方に利用していただければと願っています。